

事業所名

はぐくみの家 オリーブ

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7年

1月

23日

法人（事業所）理念		社会的支援を欠くことのできない子どもたちの生活と成長を支えるため、何よりもまず子どもたちの目線に立ち、その子一人一人に合わせた環境を提供することを目標としています。		
支援方針		日々の生活や活動（工作・料理・買い物など）を通じて生活に必要な動作やコミュニケーション能力の獲得・向上とともに、学校卒業後の社会生活能力向上のための支援プログラム（パソコン操作・ミシンや手縫い・外出など）を積極的に行い、子どもたちの可能性を引き出していきます。		
営業時間		平日：14：00～17：00 学休日：10：00～16：00	送迎実施の有無	あり（自宅までの送迎は応相談）
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	生活の流れを構造化し、子どもたちが認知しやすく過ごしやすい環境を整えます。 健康面については適宜体温測定などを行うとともに、口頭で確認し表出が難しい子どもたちには顔色や言動の様子などを注意深く観察します。		
	運動・感覚	自分が好きな運動や感覚を見つけ穏やかに過ごすとともに苦手な刺激に対しては対処法を指導し身につけられるようにします。 個人の能力に合わせた運動遊びやダンスや楽器を使った音楽演奏など披露する場を設け、子どもたちの自己効力感の向上を促します。		
	認知・行動	子どもたちの自主性をはぐくむよう本人の行動を待ちながら見守り、時にはやるべき課題をわかりやすく伝え行動を促していきます。 行動の切り替えが苦手な子どもたちには予定や活動の流れを絵カードやジャスチャーなどを交え分かりやすい方法で伝えます。		
	言語 コミュニケーション	指導員は本人が語ろうとする言葉を待ちながら、必要な場面では言葉を補い会話をします。友達同士の会話では少し離れて見守り、必要に応じて言葉を補います。 指導員はルールや手順、役割などを平易な言葉やジャスチャー、図解などを用いて分かりやすく伝えるようにします。		
	人間関係 社会性	指導員は少し離れて見守り必要に応じて言葉をかけるようにします。時には、輪の中に加わり、楽しくやりとりをします。 他者との適切な距離感や人間関係の構築を目指し、指導員が見本を示したりロールプレイングなどを通してそれぞれの関係性に合った対応の理解を促していきます。		
家族支援		日々の様子については連絡帳を用いて情報交換を行い、本人が抱えている課題や保護者のニーズなどの情報は日々のお迎えの際に情報を共有するとともに、必要に応じて適宜面談の機会を設けます。	移行支援	送迎時や面談・会議などの場において、実習先での様子や課題などの情報を共有し、卒業後の進路決定に向けて情報交換を行っていく。
地域支援・地域連携		送迎時や会議などの場において学校で設定している課題や日常の様子などの情報を得ると同時に、事業所での取り組みや関わりについて共有します。	職員の質の向上	ケース検討会 法定研修（感染予防、身体拘束・虐待防止、避難・消防訓練など） 定期的な職員のスキルアップ研修
主な行事等		季節の行事（夏祭り、クリスマス会など） 長期休み中の外出（工場見学、遠足、プール、ボウリングなど） 保護者参加イベント		